

## 「肖像画の中の義満」(室町時代の授業)

本授業は千葉県の高校教師、加藤公明氏の授業の修正追試である。加藤氏の授業では、まず義満の肖像画を見せ、なぜ義満が出家したのかについて生徒間で討論をさせている。その上で、生徒に義満が院政の法皇に凝そうとした行動をとっていたかに気づかせ、いかにして義満が、公家勢力が根強く政治力を保持していた時代の中で、自らの政権を樹立させようとしていたかを理解させようとしている。

実際の授業では2時間扱いであるため、本模擬授業では一部修正している。まず元実践どおり、義満がなぜ出家したのかについて考えさせる。その上で、義満が座っている纏綯縁の畳に着目させ、纏綯縁には、どのような人物しか座れなかったのかを確認する。さらに義満が着ている「僧綱衣」、さらに義満が建てた金閣の構造を確認し、最後に死後朝廷から「鹿苑院太上法皇」の称号を贈られたことを紹介した上で、義満のねらいは何だったのかについてももう1度考えさせるという流れにした。

なお、加藤氏の授業は基本的に「討論」であるため、元実践では「纏綯縁」に関する事など生徒の意見から出てきているが、本模擬授業では、その特性上、教師が提示するかたちをとっている。

発問1：誰だかわかる人。

指示1：手を挙げている人。この人の名前を言います。

「足利義満」

説明1：足利義満は、室町幕府の3代将軍でした。

説明2：将軍になってまもないころの足利義満です(肖像画提示)。さっきと比べてどうですか。

指示2：義満の生涯を表した年表です。義満が最初の肖像画のようなかっこうをするようになったのは、何歳ごろからだと思いますか。近くの人と相談してごらんください。

「38歳。」

発問2：ちなみに、義満は何歳で将軍をやめていますか。

「37歳。」

説明3：義満は将軍のあいだ、さまざまなことを行いました。それにもかかわらず、義満は、37歳で将軍をやめ、38歳で出家しました。

発問3：義満が出家したのはなぜでしょうか。予想をノートに書きなさい。

指示3：書いたことを発表してもらいます。

「世の中にあきた」「政治から離れたかった」

発問4：義満が座っている畳を「纏綯縁」といいます。この纏綯縁には、ある特別の人しか座れないきまりがありました。どんな人しか座れなかったと思いますか。

「天皇」「皇族」「特別な位をもらった人」

説明4：義満が来ている法衣も、当時、最高の地位にある僧侶しか着られない僧綱衣というものです。

発問5：義満が建てた建物です。何ですか。

「金閣」

説明5：金閣は、3階構造になっています。1階は公家の家のつくりである「寝殿造」2階は「武家造」、3階は「禅宗様」という造りになっています。

指示4：さらに義満は、死後朝廷から、このような名前を贈られています。全員で読みます。

「鹿苑院太上法皇（ろくおんいんだじょうほうおう）」

説明6：法皇とは、出家した天皇のことをいいます。

発問6：もう1度聞きます。義満が出家した理由は、何だったのでしょうか。自分の考えをノートに書きなさい。

説明7：一説によれば、義満は武士だけではなく、仏教の世界、さらには天皇までも自分の配下に置きたかったのではないかと考えられています。